

株式会社 ダイゲンコーポレーション

対象類型	複合・新機能材料
事業類型	一般型
主たる目的	商品開発

創業 70 年を超える紙卸商の老舗。紙のプロとして 高付加価値の加工紙を生み出し、全国展開も視野に入れる。



- 2 1 1/補助事業で新たに導入した全自動の合紙機。タッチパネルの操作も簡単で、生産性の向上に貢献している 2/2枚の紙を自動で給紙し、片方の紙に糊をローラーで塗布した後、ドラムで巻き上げる 3/紙を貼り合わせ、プレスして仕上げる 4/カラフルなオリジナルデザインのパッケージ。デザインの細かな要望や小ロットにも対応する

高付加価値を生み出す、 紙のプロフェッショナル。

老舗の紙卸商として、コピー用紙をはじめ洋紙、特殊紙、和紙、高級印刷用紙など10,000種類以上の紙を取り扱っています。近年では、HPなどを通して紙の魅力の発信にも努めてきました。ネット通販も始め、一般消費者に販路を拡大しています。現在、力を入れているのが紙の加工です。合紙やカッティングプロッターなどを駆使して、高級感のあるパッケージなど付加価値の高い紙製品へのシフトを進めています。また、「HAKO&」というショールームを開設し、パッケージのトータルプロデュースにも取り組んでいます。



代表取締役社長
大谷 佳史さん

生産性が大きく向上。商品バリエーションも拡充し、売上増大。

ダイゲンコーポレーションは1950年に紙卸商として創業し、紙のプロフェッショナルとしてさまざまな紙製品を取り扱ってきた。インターネットの発達で情報伝達手段としての紙の需要が減少する中、紙の加工に活路を見出し、付加価値の高い紙製品で成長を遂げている。競合が少ないニッチ市場を狙い、力を入れているのが合紙と呼ばれる紙の貼り合わせ。合紙加工は1989年に導入した機械で行っていたが、紙を1枚ずつ差し込む必要があり、生産性に課題があった。また、貼り合わせができるのは厚い紙に限られており、合紙のバリエーションが限定されるのも難点だった。

そこで補助事業を活用し、2018年10月に2台目となる合紙機を導入。新しい機械は貼り合わせる紙を自動給紙する全自動型で、生産性の向上に大きく貢献した。新たに導入した合紙機は、1台目と異なり、薄い紙同士や薄い紙と厚い紙の貼り合わせが可能で、合紙のあらゆるオーダーに対応できるようになった。特に、おせちの重箱など高級パッケージ用の注文が伸びており、売上・利益ともに増大。合紙に携わる従業員も増員し、雇用創出にもつながっている。今後は、全国規模での紙加工の注文獲得を目指して、さらなる設備投資も検討中だ。

注目すべき 成果

全自動の合紙機を導入し、
生産性が格段に高まった。

補助事業で新たに導入した合紙機は、貼り合わせる2枚の紙を自動給紙する全自動で、1時間あたり2,000枚の合紙の生産が可能。給紙に手間がかかっていた従来機での合紙の課題を改善し、生産性が向上した。

導入による 付加価値

高級パッケージ用の
合紙が可能に。
有望市場を掴んだ。

新しい機械の導入で、薄紙と厚紙の貼り合わせが可能に。薄紙と厚紙の組み合わせは、土産物やおせちに使われる高級パッケージの主流。その有望市場を掴む合紙を生産できるようになり、売上・利益ともに増大した。

今後の展望

高付加価値の
紙加工実績を発信し、
全国展開を目指す。

北陸新幹線延伸で需要の増加が見込まれる土産物、贈答用日本酒、宅配おせちなど、有望な高級パッケージ市場で受注増大を目指す。また、高付加価値の紙加工の実績をHPやSNSで発信し、全国展開を図る。

ものづくり専門員から一言

『環境変化への対応と 新たな市場開拓』

本事業および設備導入により合紙製品の生産性並びに加工精度の向上を図った。創業より“紙”の認知度向上に取り組むとともに、現在ではパッケージデザインも手掛けるなど顧客層もBtoBからBtoCまで拡大しトータルプロデュースを行っている。

こんな会社です！



本社1階に併設したショールーム「HAKO&」



ダイゲンコーポレーション本社

株式会社 ダイゲンコーポレーション

代表者/代表取締役社長 大谷 佳史
設立/1950年(昭和25年)5月
資本金/3,000万円 従業員数/28名
事業内容/和洋紙・板紙・包装資材の販売、印刷用機・OA機器の販売、包装システムライン・FA及び周辺機、改良紙・工芸紙の製造、不動産の賃貸、倉庫業

本社:〒918-8231 福井市問屋町1-2
☎0776-22-1760 FAX. 0776-27-1463
[E-mail] kamikakou@daigen-goushi.com
[URL] https://www.daigen-goushi.com/